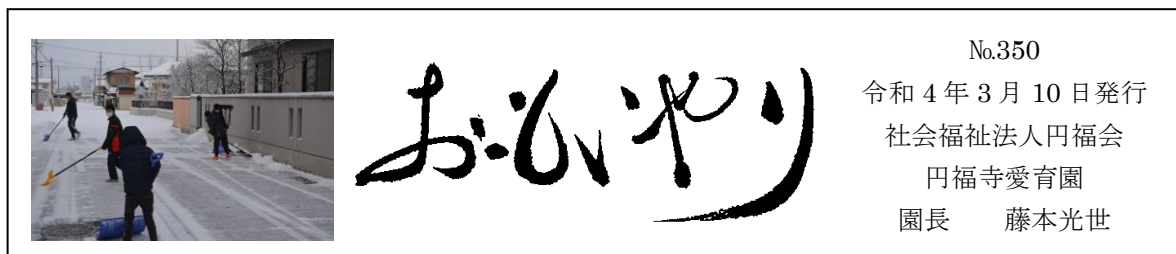


コロナ下で分散登校が始まりました。子どもたちは元気に生活しています。



矢島久和元理事さまのご逝去を悼む

園長 藤本光世

社会福祉法人円福会の理事を昭和55年から平成29年まで37年間にわたりお務めいただいた矢島久和さまが令和4年1月30日にご逝去されました。享年94歳でした。

父は矢島久和さまと旧制屋代中学同窓のよしみで、(株)フレックスの毎週の朝会でお話しをさせていただき、あるいは九州や海外の工場へ同行させていただきました。フレックスに入ると右側正面に「朝に希望 夕に祈り」(あしたに希望 ゆうべに祈り)の父の書の大額が掛けてあります。

矢島さまには、いろいろな場面で温かくご指導いただきました。

そのうち私にとって節目の三つのご指導を、「圓福」の「敬愛信」と共に、ここに再掲いたします。

1. 園長に就任する時(平成20年)

園長を兼ねる時、私は児童養護施設の仕事が分からないし、理事長が園長を兼ねることができるのか不安があり相談に上がりました。フレックスの広い応接室で、矢島さまは私が佐久長聖の校長を退いたことを残念がられてから、「理事長が園長を兼務するということは、対外的に法人と施設が一体となって混乱の解決に邁進している姿勢を示すことになる」と激励してくださいました。これで、園長を兼ね、全力で混乱を乗り越えようと決断しました。

この時まで、私は矢島さまに面と向かってお会いしたこともないし、雲の上の人でもありました。どうして相談に行こうと思ったのでしょうか。きっと、理事会で矢島さまの人格に触れて、この人ならと感じたのでしょうか。

2. 児相や県や長野県児童福祉施設連盟と闘っていたとき(平成24年頃)

当時の円福寺愛育園は内憂外患四面楚歌(児童は荒れていました。管理監督者の信頼もなかったと思います。)でした。私は状況を切り拓こうと管理監督者の県こども・家庭課や児童相談所、児童福祉施設連盟と闘っていました。それを見て、次のように私を諫めてくだ

(令和4年3月10日発行 月刊「円福」498号付録)

さいました。「おっしょんなあ、清水次郎長は一度も喧嘩に負けたことがなかったんだ。どうしてかわかるかい？」私が黙っていると「弱い奴としかやらなかったからだよ。」そう教えてくださいました。私が無謀な闘いをしていることをよく見ぬいておられて、心配してくださいました。今は県とも児相とも信頼を勝ち得て、助け合って子どもを育てています。

このご指導は、確か電話でいただきました。あまりに強烈だったので、電話をとった場所やお声の雰囲気を感じています。怖かったですよ。矢島さまは、ある時はとっても怖い人でした。この言葉を肝に銘じて、長野県家庭的養護推進計画にも対応しています。

3. 長野県児童福祉施設連盟を脱退する時(平成28年)

相談にあがると次のように話されました。「脱退してもいいよ。でもね、一番にならなければだめだ。それもぶっちぎりの一番になりなさい。」このお言葉をいつも胸に秘めて実践し、今愛育園はぶっちぎりの一番になりつつあります。児相で手の焼いた子どもが当園に措置されると、皆勤で通学し勉強するようになります。児相の信頼も厚く他施設ではできない養育ができるようになりました。もっとぶっちぎりの一番を目指します。

年末のご挨拶に行くと「まあまあ上がって」とご自宅の応接室にあがらせていただいて、長時間にわたりたくさんのお話をお聞かせいただきました。心に残っていることを書きます。

➤ 会社は強くなければダメだ

このことは、何度もお聞きしました。矢島さまが会社に就職された戦後間もなくのころは「矢島シャツ工場」と言われたそうです。製品を仲買の会社にたたかれたのでしょうか。自社で販売ができるようになって、儲けが上がったとも聞きました。強くなるために、いつでもどこでも常に考え続けていたと話されました。「蝶屋」(CHOYA)？と言う大きなシャツメーカーがありました。それが潰れた原因についても話されました。私は興味津々でお聞きしました。

今、(株)フレックスは日本一のシャツメーカーです。

(会社名を「高原シャツ」から「フレックス」にしたのは、父の助言がきっかけだそうです。)愛育園も強くなければダメです。そのためには良い養育をすること。これに尽きます。

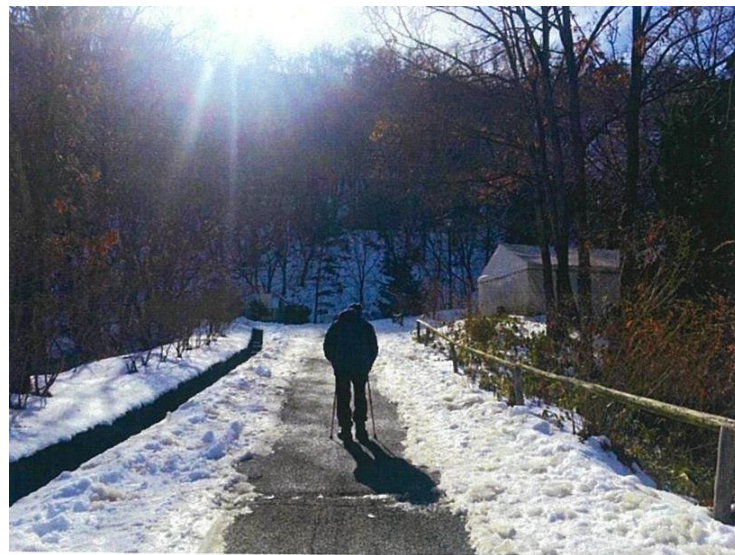
➤ 機を逃さない 許さない

関西方面に行った時のお話です。その責任者の方が、矢島さまに報告の中で何か言ったのです。(内容は忘れましたが)どうしてもおかしい。考えれば考えるほどおかしい。それで、中津川を過ぎてから電車を折り返して、戻って指導されました。その人はその後どうなったのでしょうか。

組合との交渉のお話もすごかった。

➤ 体との約束

矢島さまは、お亡くなりになる前日まで高低差約120mの將軍塚に登ることを日課とされてきました。写真は1月29日に、光に向かって歩むお姿をご子息の隆生さまが撮られたものです。暑い日も、寒い日も、雨の日も雪の日もです。お邪魔した時に聞いてみました。「私は、体と約束したから」と答えられました。



父最後の1葉:2022年1月29日撮影

何かの時に故栗田正治理事さまから、「おっしやんなあ、先代はいい理事さまを遺されたんだよ。渡邊理事はすごい人物だよ、でも矢島理事さまはもっとすごいぞ。」と言われました。本当にその通りでした。父は、立派な方々を役員として遺してくださいました。皆さまのおかげで、平成20年の大混乱を乗り越え、今があります。ありがとうございます。

雪かき



あおぞらホーム 金井雄大

2月になっても、寒い日は続き、朝になれば何度か雪が積もっている日がありました。円福寺愛育園では、雪かきはあおぞらホームの子たちが手伝ってくれます。朝、園の前の道路に雪が積もっていれば、普段より少し早く児童に声をかけ、手伝ってくれる子を募ります。するとほとんど子が飛び起きて雪かきを手伝ってくれます。以前は中高生のみ声をかけていましたが最近小学生も起きて手伝ってくれています。

あおぞらホームの子たちと雪かきをするとあっという間に雪かきが終わり、子どもの中には幼稚園の方や、そこからさらに先の道路までやってくれる子もいます。ホームのほぼ全員が参加すれば、園の前が雪で真っ白でも20分かかからずに綺麗になりました。子どもたちからすれば、雪に触れられると言うのが楽しいかもしれません。



公立前期入試



まごころホーム 田中沙季

2月8日に高校入試の前期選抜試験が行われました。今年、愛育園には2人の受験生がいて、そのうちの1人が前期選抜試験を受験しました。結果から言うと、無事合格することが出来ました。前期試験前に募集人数を確認すると、募集定員よりも受験者数の方が多く倍率が高かったのが正直、大丈夫だろうか、こんなに倍率が高かったら落ちているかもという思いもありました。きっとMさんにもあったの

ではないかと思います。

前期試験では面接が行われます。学校でも面接練習を行い、園でも毎日の様に面接練習を行いました。面接練習を行う前にどんな質問をされるのか調べ、Mさんに答えを考えてもらいました。そして考えた答えを元にもっとよくなるように一緒に考え内容を遂行しました。始めて面接練習をした時、Mさんはかなり緊張していて、一字一句間違えないように答えようとして答えられず黙ってしまうことがあったので「間違えてもいいからたくさん練習して出来るようになるろう」と伝えました。それから学校の先生や園の職員と練習し、沢山アドバイスもらったことでだんだんと慣れて、質問に答えるだけでなく表情や話し方にも意識が向けられるようになっていきました。時折「何か分からないけど緊張する」「ほんとに受かるかな」という思いもありながら当日を迎えました。当日もかなり緊張した様子でしたが、実際にやってみるとそこまで緊張せずでき、想定していなかった質問もあったようですが、上手く答えられたとあっけらかんとした様子で教えてくれました。合格発表の日は受験の時よりもさらに緊張した様子でした。高校に向かう車内

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

でも落ち着かない様でずっと喋っていました。掲示されたプリントから M さんの受験番号を見つけ「ほんとによかった！」と喜びました。

高校受験を何とか乗り越えることができ、現在は入学に向けて期待が高まっている頃ですが入学までの生活も落ち着いて過ごしてくれたらいいなと思います。今後も大変なことはたくさんあると思いますが、頑張っ乗り越えていって欲しいなと思います。

バウムクーヘンの頂き物

あおぞらホーム 大山豊彦



2月21日のおやつに、匿名様から頂きました治一郎のバウムクーヘンをみんなで食べました。しっとり甘いバウムクーヘンに子どもたちは「美味しい！すごく美味しい」ととても喜んでいました。1つの層を剥がしながらゆっくり食べる子もいれば、一口食べてはゆっくり口の中で味わう子もあり、沢山の方々からこのような美味しいお菓子を頂けることが本当に感謝です。沢山の方々に支えられて子どもたちの生活があること、当たり前のように食べるのではなくきちんと感謝の気持ちを持って食べようねと子どもたちに話しました。

コロナ禍が猛威を奮ってるおり、外で大声を出して笑うことや食事もみんなで楽しく食べれない中で、頂いたバウムクーヘンを頂き子どもたちも笑顔になりました。本当にありがとうございます。

カーブス・フードドライブ

あおぞらホーム 石龍成己

2月22日、毎年恒例で頂いているのですが、カーブス様にご来園頂き、「カーブス・フードドライブ」と称し、多くの食料品の寄附を頂きました。今年もコロナ下という中ですが、車2台にパンパンに食料品積んでいらしてくれました。調理で保管し、少しずつ毎日の食事やおやつに使わせて頂いています。用意するだけでも本当に大変かと思いますが、毎年欠かさず寄付して下さい、本当にありがとうございます。

あおぞらホームだより

あおぞらホーム 畔上裕吾

今年度も残すところ1ヶ月程となってきました。コロナの感染拡大に伴い、再び小中高と分散登校や休校の期間が続いています。このような大変な状況ではありますが、子どもたちは元気に愛育園で生活を送っています。あおぞらホームでは新年度中学生になる子が2名おり、Kくんは

(令和4年3月10日発行 月刊「円福」498号付録)

サッカー部に入りたいと中学校生活に向けて期待に胸を膨らませています。学業に部活動、小学生の頃と比べやらなければならないことが増えてきますが、3年間やりきって欲しいと思います。今年度卒園する子はあおぞらホームから1名います。4月からは将来に向け新たな進路へと進みます。愛育園での生活を教訓にし、新天地でも頑張っ欲しいです。



まごころホームだより

まごころホーム 竹内早季

子どもたちとコロナの感染対策のために「黙食」や「消毒」を徹底したり、いつもは全員が集まって学習をしていたのを各居室での取り組みにしたりと、不便なところもありつつみんなで協力して生活しています。学校も未だに分散登校が続いており、「仲の良い友だちが別の登校日で悲しい」という声も聞きます。早く以前のような生活に戻って、気軽に子どもたちと遊びに出掛けられるようになることを願っています。さて、まごころホームでは今年度2名の卒園生がいます。それぞれ、就職先や進学先が決まり、自動車免許取得やアパート探しなど忙しい日々を送っています。まだまだ自分で生活していくというイメージをするのも難しいですが、卒園した時に少しでも不安や心配がなくなるよう最後までできる限りのサポートをしていこうと思います。また、高校受験を控えた子どもや小学校入学を待つ児童もいます。年長さんは「ランドセル何色がいい？」と聞くと「黒かな、赤かな」とわくわくした表情で答えてくれます。4月からの新生活に向けて、しっかりと準備していきたいです。



調理室だより

栄養士兼調理員 内山さくら

桃の節句も過ぎ、風にも日差しにも春らしさを感じられるころとなりました。調理では、週に3、4回提供している手作りおやつは子どもたちが楽しみにしてくれているようで、おやつ作りにより力が入ります。2月14日のバレンタインにはラッピングをしてブラウニーを提供しました。調理の先生に「いつもとは違う、子どもたちが喜ぶようなおやつを出したいです。」と相談したところ、「こんなものはどうかな？」と提案して下さいました。それはただのブラウニー

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

(令和4年3月10日発行 月刊「円福」498号付録)

ではなく、ピンク色に着色したハート形のクッキーをブラウニーの上に乗せて焼くというものでした。恥ずかしながら私は、中学校の家庭科の授業でクッキーを作った以来クッキーを作ったことがなく、当日、手作りでクッキーを焼くことが決まったので、正直作れるのか心配でした。ですが、日ごろから家庭でおやつ作りをしている先生は、すぐにネットで材料を検索し、分量を量り、気づいたら生地が出来上がっており、すごいと感じました。ブラウニーの焼き上がりは、見た目も可愛く、大成功でした。

今後は、子どもたちが新しい味や食材に出会う食育をしていきたいと考えております。ホームの先生方や調理の先生方と連携を取りながら、子どもたちが喜ぶ食事作り、献立作りに励んでいきたいと思っております。

